

令和元年度 交通局運営方針

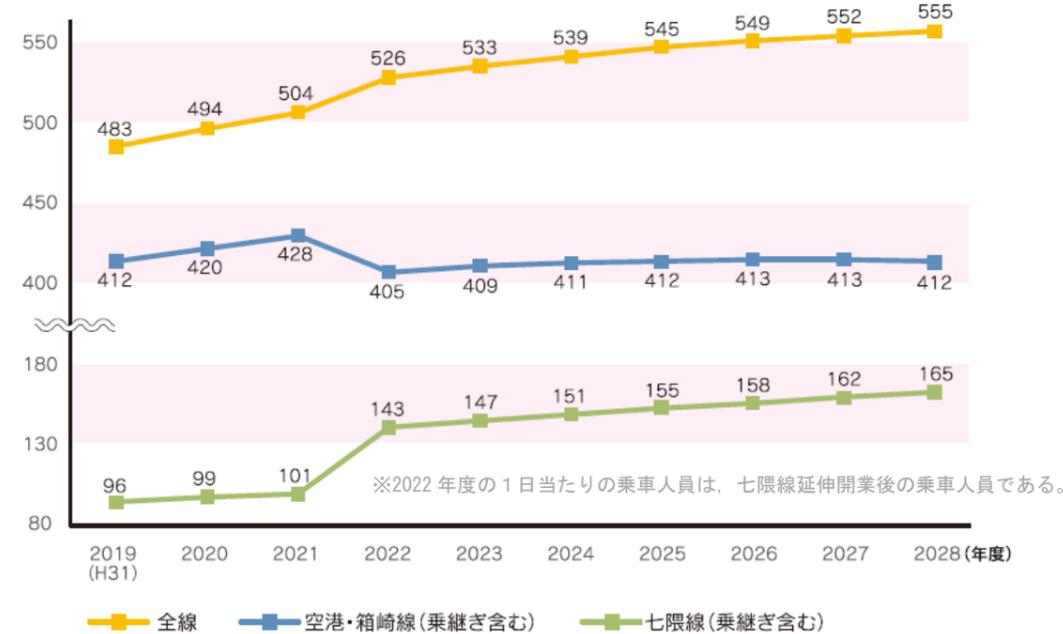
1. 経営理念

私たちは、日常を支える公共交通機関として、安全・安心を何よりも優先するとともに、質の高いサービスの提供にチャレンジし続けることで、お客様と福岡のまちの笑顔と元気を運びます。



2. 中長期目標（乗車人員，財政計画）

1日当たり乗車人員の見込み
(千人)



全線収支

(単位：億円、収益的収支は税抜、資本的収支は税込)

区分	年度	計画期間									
		2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
収益的収入	乗車料	296	302	308	313	327	330	333	336	339	339
	補助金	22	17	18	13	12	11	9	8	7	6
	その他収入	58	56	53	55	58	58	57	56	56	56
	計	376	375	379	381	397	399	399	400	402	401
収益的支出	人件費	50	49	47	49	50	48	48	49	49	48
	修繕費	51	49	51	48	48	45	46	48	47	55
	その他経費	53	52	53	53	55	56	56	55	56	56
	計	154	150	151	150	153	149	150	152	152	159
減価償却費	減価償却費	126	119	112	114	131	134	136	140	144	146
	支払利息	33	29	26	24	22	20	18	15	13	11
	計	313	298	289	288	306	303	304	307	309	316
半年度損益	63	77	90	93	91	96	95	93	93	85	
累積損益	△ 1,110	△ 1,033	△ 943	△ 850	△ 759	△ 663	△ 568	△ 475	△ 382	△ 297	
資本的収支	資本的収入	310	267	288	286	165	148	96	71	72	43
	資本的支出	450	420	432	409	319	348	299	277	281	245
	差引	△ 140	△ 153	△ 144	△ 123	△ 154	△ 200	△ 203	△ 206	△ 209	△ 202
累積資金過不足	△ 56	△ 44	△ 9	51	90	90	90	90	90	90	
企業債残高	2,339	2,215	2,136	2,067	1,943	1,773	1,602	1,429	1,253	1,065	
乗車人員(1日当たり)	483,000人	494,194人	504,158人	512,633人	525,549人	532,958人	539,451人	544,666人	548,944人	552,221人	554,527人

※2022年度の()書きは、七隈線延伸開業後の1日当たり乗車人員である。



3. 中長期目標（成果指標）

指標項目

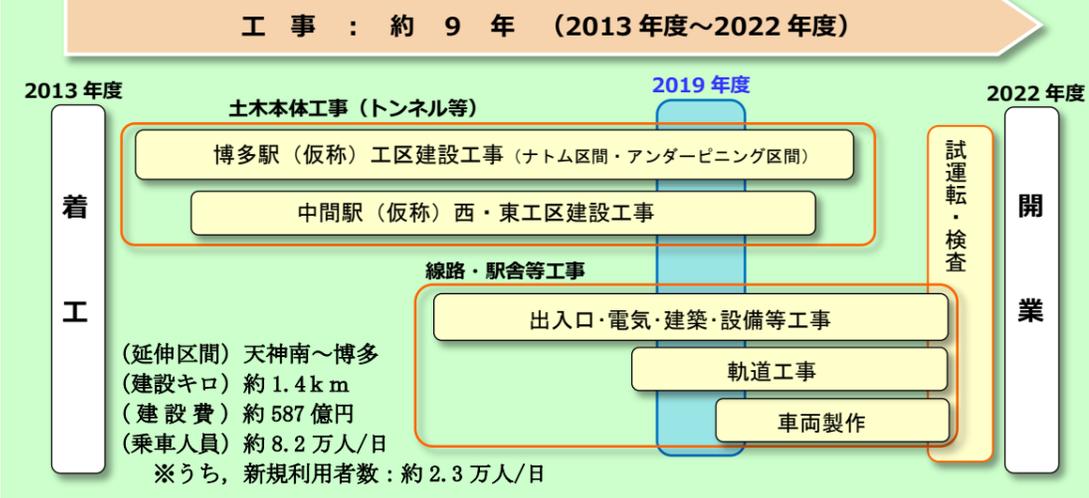
現状値 → 最終年次

安全・安心の確保	地下鉄が安全・安心と感じるお客様の割合 (%)	89.9 → 現状以上
	ヒューマンエラーの件数 (件)	63 → 50
	技術の継承がうまくいっていると思う職員の割合 (%)	32 → 60
	施設・車両に起因する運行への影響件数 (件)	11 → 8
	施工不良・作業不良に起因する障害の件数 (件)	14 → 11
快適で質の高いサービス提供	朝ラッシュ時の定常的な遅延時分(遅延率) (%)	《空港・箱崎線》 50 → 30 《七隈線》 14 → 5
	「駅員の接客」に関する満足度 (%)	94.8 → 現状以上
	エレベーター、エスカレーターを増設した駅数 (駅)	— → 10
	「乗車マナー」に関する満足度 (%)	677 → 75
	65歳以上の利用者数 (人)	23,716 → 60,000
	「案内サイン」に関する満足度 (%)	85 → 90
まちづくりへの貢献	地下鉄駅に親しみや愛着などの魅力を感じるお客様の割合 (%)	85.1 → 90
	他の交通機関との乗継ぎがしやすいと思うお客様の割合 (%)	75.3 → 80
	お客様1人を1km運ぶために使用する電力量 (WH/人 km)	102 → 91.3
経営基盤の強化	累積欠損金 (億円)	1,243 → 297
	企業債残高 (億円)	2,530 → 1,065
	現在の仕事にやりがいを感じている職員の割合 (%)	58 → 70

4. 施策・事業の推進

(1) 七隈線延伸事業の推進

- 安全対策に万全を期しながら、土木本体工事等を着実に推進するとともに、線路や駅舎等に関する工事や車両製作に順次着手し、安全を最優先に早期開業を目指す。



【主な事業内容（H31）】

- 土木本体工事
- 中間駅（仮称）出入口工事
- 3000系車両発注
- 軌道工事 等

3000系車両発注

現在の3000系車両から基本コンセプトやイメージを引き継ぎ、優れた部分を活用しつつ、お客様のニーズや社会情勢などにより新たな変更を加えた「ユニバーサル都市・福岡」にふさわしい車両を目指す。

(2) 安全・安心の確保

- 運輸安全マネジメントのスパイラルアップを図るとともに、教育訓練の充実などによる安全スキルの向上や、施設・車両などの安全確保、様々な自然災害やテロ対策の強化、管理・監督機能の強化などに取り組む。

2000系車両大規模改修

- 車体劣化部分の補修、車内床・化粧板リニューアル
- 主電動機・低圧電源装置の更新、省エネ機器の導入
- 車内案内表示器を液晶型に更新
- 優先席付近の2段手すりの新設、非常通報装置移設
- ドア開閉予告灯・チャイムの新設



2000系車両出入口付近改善イメージ

土木構造物改良工事

姪浜駅リニューアル（ホーム上屋改修）

(3) 快適で質の高いサービスの提供

- お客様により満足いただける高品質なサービスを提供するため、スムーズな輸送サービスや快適・便利な環境づくりに取り組むとともに、超高齢社会に対応したサービスの提供や来街者にも使いやすい環境の整備など「ユニバーサル都市・福岡」にふさわしい地下鉄に向けた取組みを推進する。

博多駅筑紫口昇降機設置事業

- 博多駅筑紫口エスカレーター設置工事
- 博多駅筑紫口エレベーター設置 実施設計業務委託

駅空調の改善

- 空港・箱崎線クールルーム改善
- 七隈線スポット空調設備改善

高齢者への対応（駅施設の改良）

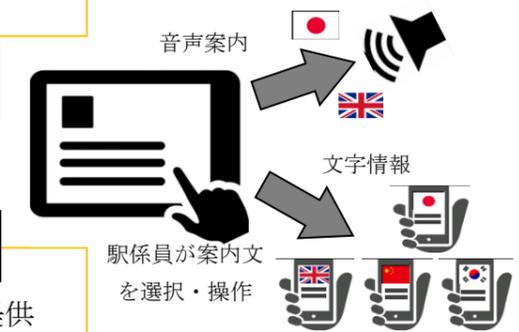
- ベンチの設置
- トイレの洋式化

駅案内サイン等の改良

乗車マナーの向上

インバウンド対策の拡充

- 緊急時及び異常時等の多言語による情報提供
- 地下鉄駅コンシェルジュ
- トイレの洋式化



情報提供イメージ

(4) まちづくりへの貢献

- 福岡のまちの発展に貢献するため、駅周辺のまちづくりに対応した駅施設の改良や、沿線の地域、イベント、施設などと連携した取組みを推進する。また、総合交通体系構築の観点から他の交通機関との連携強化に取り組むほか、省エネの推進など環境対策に関する取組みを進める。

天神駅東口リニューアル事業

- 天神駅東口レイアウト変更に伴う改修工事
- 天神駅東口エレベーター設置 実施設計業務委託

地下鉄駅の魅力づくり

- 駅の個性化・活性化を図る空間づくり
- 副駅名の設定

駅照明等のLED化改良工事



副駅名の設定・記念はやかけんの発売
薬院大通駅（動植物園口）

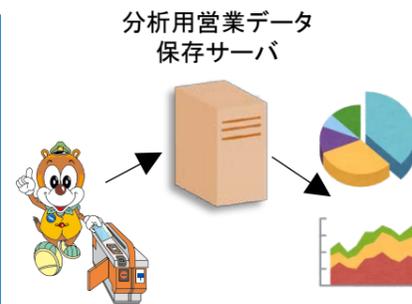
5. 経営健全化の推進

・経営基盤を強化するため、データ分析に基づく戦略的な営業施策の推進、広告料・構内営業収入の確保や遊休資産の有効活用に取り組むとともに、アセットマネジメントの推進や経営の効率化を進める。

戦略的な営業施策の推進

営業データの分析・活用

ICカードや改札情報などの営業データを統一して保存する新たなサーバを構築し、各データを連携させた分析を適宜行っていくことで、戦略的な営業施策を実施し、ひいては顧客サービスの向上や増客増収につなげる。



関連事業の推進と遊休資産の有効活用

○広告料収入の確保

デジタルサイネージをはじめとした新規広告媒体の導入を進めるとともに、既存の広告媒体についても料金の改定や販売方法の見直しを行うなど、広告に対するニーズの変化に対応しながら、広告料収入の確保に努める。

○構内営業収入の確保

駅リニューアル時等にあわせて魅力あるテナント事業者の誘致を進めるとともに、小スペースを活用した小型施設の設置により、さらなる利便性向上と構内営業収入の確保に努める。

○遊休資産の有効活用

土地の余裕部分や駅施設の空室などの遊休資産について、お客様の利便性向上や地域のまちづくりへの貢献の視点を踏まえつつ、活用方法を検討し、有効活用を推進する。

アセットマネジメント実行計画の策定

○アセットマネジメント実行計画の策定

福岡市交通局アセットマネジメント実行計画に基づき、安全性を最優先として、施設・車両等の計画的かつ効率的な修繕・更新等を実施する。

6. 人材育成・活性化, コンプライアンスの推進等

人材育成の推進

平成27年6月に策定した「交通局人材育成プラン」に基づき、専門的かつ高度な知識や技術を有する人材を計画的に育成していくため、研修の改善に取り組むとともに、鉄道に関する幅広い知識の習得や専門技術の向上に向けた取組を推進する。

【主な取組】

○鉄道技術講習会

他の交通事業者などから外部講師を招き、その取り組みや技術を学び、技術力の維持・継承や業務改善力の向上等を図る。

○技術継承懇談会

採用10年未満の職員を中心に、中堅職員やベテラン職員と幅広く意見交換や情報共有ができる場を定期的に設け、職員間同士の交流を深めるとともに、知識の習得や技術継承を図る。

○技能習得実地研修

他部門における現場作業等の実地研修を通して、地下鉄事業の特殊性を理解し、幅広い視点を持たせることで様々な状況に対応できる人材の育成を図る。

コンプライアンスの推進

地下鉄事業に従事する職員としてのプロ意識・使命感のもと、その職務の責任を自覚し、知識や技術の習得に努めるとともに、自ら考え行動し、安全最優先の職場風土の確立を図る。

また、飲酒運転等不祥事再発防止など、コンプライアンスの推進に向けた取組を継続して行う。

ワーク・ライフ・バランスの実現

長時間労働を前提としない働き方の意識を徹底するとともに、限られた時間を効率的に使い、創意工夫しながら、生産性の向上に資する取り組みを推進し、WLBの実現を図る。

【生産性向上のための取組例】

○係間の支援体制の確立

○マニュアルの共有化

○計画的な教育訓練の実施